現場の参考書　未来への備え

マフラー・インジェクターの詰まり　迅速に解消

川原代自動車電機工業所（茨城県竜ケ崎市）

洗浄剤「煤ゴッソ」を開発

川原代自動車電機工業所（湯沢文一社長、茨城県竜ケ崎市）は、自動車電装品の販売・取り付け・修理のほか、ディーゼルインジェクターの点検・洗浄メンテナンスを手がけている。インジェクターに詰まりが出ると不完全燃焼につながり、排気系部品のDPFフィルターやマフラーのつまりにつながる。同社では、予防整備や環境面への配慮からインジェクターの洗浄メンテナンスを提唱し、明和化学工業（田中勇社長兼CTO、東京都港区）と共開発の洗浄剤「煤（スス）ゴッソ」を開発した。まずは5月末に開かれるジャパントラックショーに出展し、整備工場や運送会社へ「インジェクター洗浄メンテナンス」の認知活動を進める。（横瀬　真季）

インジェクターやDPFマフラーの煤を落とす「煤ゴッソ」

不具合発生防ぐ　予防整備

同社がインジェクターの洗浄メンテナンスを始めたのは約5年前。ディーゼル車の主要部品の中でも、燃料供給をコントロールするインジェクターが煤などで汚れて詰まると、噴霧不良に陥り、DPFまりを訴える顧客の声を聞くRバルブなどにカーボンスラッジがたまって固着、不具合につながることがあるという。同社では、20～30万キロに一回の洗浄メンテナンスを勧めている。「マフラーの詰ことが多かったことが開発を決めたきっかけのひとつだ」（湯沢社長）と振り返る。

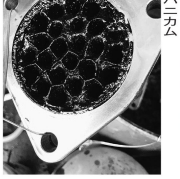
コスト抑制も　魅力の一つ

しかし、当時のインジェクターやマフラーのメンテナンス方法は、エアブローや高圧洗浄といった対処方法しかなかった。煤が落ちにくく時間がかかることが課題だった。また、溶剤も「丸一日つけておく必要があり、フィルターのハニカムグリルを痛めてしまうおそれもある」（同）という課題があった。

湯沢社長（右）と田中社長

専用の洗浄機。メーカーと共同開発しているという

ススゴッソは、非塩素・中性系でつけおき時間が約60～90分。従来品と比べ短い時間で洗浄を可能にした製品だ。短いつけおき時間のため、フィルターにダメージを与えにくい。車両のメンテナンスを優先にとって、メンテナンス効率を上げた同製品は時間短縮のメリットを訴求できる。また、部品交換ではなく洗浄メンテナンスを実施することで、整備コストを抑えることも大きな特長だ。「これまで2～3日預かっていた車両を、即日で返却することもできるようになった」（同）と話す。


煤がこびりついている状態のハニカム

同製品は18リットル単位で販売する。溶剤は薄めて使うため、一缶でおよそ一〇〇リットル分の溶液となるという。

部品交換よりエコ　認知向上へ

作業時間短縮で働き方改革にも

同社は19年12月に新会社「エコレボ」を立ち上げた。リビルト品やバッテリーを取り扱うほか、ススゴッソと専用開発した洗浄機を組み合わせたシステムを事業者に訴求していく。専用のホームページも立ち上げる予定だ。作業時間の短縮によって働き方改革にもつながるほか、洗浄メンテナンスという部品交換と比べ廃棄物をなくせるエコな予防整備を提唱する。

「これまで、インジェクターやマフラーの洗浄メンテナンスは認知度が低かった。インジェクターのメンテナンス方法の一つとして、洗浄という選択肢があることを知ってもらいたい」（同）と今後の目標を語った。今後も、洗浄メンテナンスを軸に、「車社会の環境改善」を進めていく。

専用の洗浄液で煤を浮かせて落とす

会社名：川原代自動車電機工業所
代表者：湯沢文一社長
所在地：茨城県竜ケ崎市南中島町576
TEL：0297-66-2566
URL：http://www.kawarasdiro.com/

輝けメカニック　整備工場の人づくり〈159〉

女性の自動車整備士育成に力を注ぎ着実に成果

北摂オート

働きながら3級資格取得

〝ならでは〟の不便さあっても支障はなし

自動車整備業界では、女性自動車整備士の活躍に期待が寄せられている。深刻である人材不足への対応はありながらも、女性客とのお客様対応の向上や企業のイメージアップに効果があるなどして注目が集まっている。しかし、日本自動車整備振興会連合会が今年度行った調査では、女性整備士の数は前年度に対し347人減少しており、思うように活用が進んでいない。こうした中で、女性整備士の育成で成果を上げたのが整備専業者の北摂オート（喜多克之社長、大阪府箕面市）だ。2年前に採用した2人の女性は3級自動車整備士の資格を取得し、整備業務やロードサービスなどで活躍を見せている。（関西支社・大谷　学）

2年前までは男性整備士のみが勤務していた同社の整備工場だが、2人の女性が入社したことで職場環境は「変したという。喜多社長は「きちんと育てられるのか、初めは会社として不安があった」と寄せられていた。

整備工場の人材育成は、2人に対し、同社は入社からなく、女性客とのゴールデンウイークまでの間ゴールデンウイークまでの間を研修期間に充て、車の知識や基礎経営、自動車業界の動向までを彼女たちに教えた。昨年には順調に3級自動車整備士資格を取得し、現在は2年後の2級整備士取得を目指して日々の業務に励んでいる。

前線で活躍する女性整備士の2人。手際よく作業をこなしている

このうち高校卒業後にすぐ入社した土田あけみさん（仮名）は、父が自動車整備士という家庭で生まれ育った。高校時代からの貯金でマイカー3級自動車整備士の資格を取得し、整備業務やロードサービスなどで活躍を見せている。

2年前までは男性整備士のみが勤務していた同社の整備工場だが、2人の女性が入社したことで職場環境は「変したという。喜多社長は「きちんと育てられるのか、初めは会社として不安があった」と寄せられていた。

自動車整備業界では、女性自動車整備士の活躍に期待が寄せられている。深刻である人材不足への対応はありながらも、女性客とのお客様対応の向上や企業のイメージアップに効果があるなどして注目が集まっている。しかし、日本自動車整備振興会連合会が今年度行った調査では、女性整備士の数は前年度に対し347人減少しており、思うように活用が進んでいない。こうした中で、女性整備士の育成で成果を上げたのが整備専業者の北摂オート（喜多克之社長、大阪府箕面市）だ。2年前に採用した2人の女性は3級自動車整備士の資格を取得し、整備業務やロードサービスなどで活躍を見せている。（関西支社・大谷　学）

2年前までは男性整備士のみが勤務していた同社の整備工場だが、2人の女性が入社したことで職場環境は「変したという。喜多社長は「きちんと育てられるのか、初めは会社として不安があった」と寄せられていた。

整備工場の人材育成は、2人に対し、同社は入社からなく、女性客とのゴールデンウイークまでの間ゴールデンウイークまでの間を研修期間に充て、車の知識や基礎経営、自動車業界の動向までを彼女たちに教えた。昨年には順調に3級自動車整備士資格を取得し、現在は2年後の2級整備士取得を目指して日々の業務に励んでいる。

このうち高校卒業後にすぐ入社した土田あけみさん（仮名）は、父が自動車整備士という家庭で生まれ育った。高校時代からの貯金でマイカー3級自動車整備士の資格を取得し、整備業務やロードサービスなどで活躍を見せている。